

【研究主題】

「志摩市活性化プロジェクト」の考案をととした社会参画力の育成

【開発するプログラムの概要】

公民科の「公共」の授業を中心に、地元自治体の活性化プロジェクト（「志摩市活性化プロジェクト」）を考案する学習をととして、生徒の主権者として必要な資質・能力を育むプログラムを開発する。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高等学校・1年生> 公民科（公共）

【単元名】

現代社会の諸課題（Bア(ウ)(I),イ）

【主な単元の目標】

主として経済に関わる事項について、法、政治などの側面を関連させ、解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したことを、表現する。

【学習課題】

すべての人の幸福を実現できる社会の形成に向けて、自立した主体として活動するために必要なことは何か。

| 時間 | 主な学習内容 | |
|-------|-----------------------|-----------------------------|
| | 公民科（公共） | 関連付けた他教科等 |
| 1 | 職業選択、雇用と労働問題 | 商業科 |
| 2/3 | 財政および租税の役割 | |
| 4/5 | 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 | |
| 6 | 市場経済の機能と限界 | |
| 7 | 金融の働き | 家庭科 |
| 8/9 | 経済のグローバル化と相互依存関係の深まり | 商業科 |
| 10/11 | | 特別活動 「志摩市活性化プロジェクト」中間発表会 |

【実践例】 公民科（公共） 「財政および租税の役割」 第3/11時

授業の概要

<概要>

地元自治体の三重県志摩市の財政の課題について、志摩市の現状を踏まえ、「効率」「公正」「幸福」「持続可能性」などの概念を活用し、その解決方法について、多面的・多角的に考察する。



<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようになるための指導上の工夫

- ・まちづくりのために、税金がどのように使われているかなどについて、納税者及び住民としての立場から関心をもつことができるよう、地元自治体の広報誌「広報 しま（予算特集号）」を活用した。
- ・生徒が考案する「志摩市活性化プロジェクト」の実現可能性、妥当性や効果を検証できるように、志摩市の施政方針や予算規模を確認した。
- ・説得力のある意見となるよう、他の自治体の予算規模等、様々な資料と照らし合わせながら、必要な情報をまとめるようにした。

専門家や関係諸機関等との連携・協働

「財政および租税の役割」について理解を深め、財政を自分たちに関わる問題として捉えることができるよう、東海財務局津財務事務所と連携し、「財政教育プログラム」を活用した出前授業を実施した。

効果等

- ◆ 地元自治体の財政の課題について、「人間と社会の在り方についての見方・考え方」を働かせ、多面的・多角的に考え話し合うことにより、政治と自らの関わりを意識することができるようになった。
- ◆ 課題の解決に向けて合意形成を視野に入れながら、自分の考えが説得力のあるものとなるよう、必要となる情報を効果的に調べまとめたり、表現したりしようとする態度が養われた。